

豊後高田は 15 世紀から 16 世紀にかけての戦乱期のある時期に城下町になっていた。その地は千年以上の歴史を有しているが、今日では「昭和の町」として知られている。その名前はおよそ 1950 年から 1980 年に渡る昭和時代の後半を表していて、それはしばしば「古き良き時代」と見なされている。2001 年に最初七つの店からなる共同体によって造られたのだが、昭和の町は 1950 年代から 1960 年代の容貌と運営方法に戻された 40 の店舗から成り立っている。その共同体はそれぞれの店舗に「一店一宝」の計画の一端として骨董品や希少品を展示することを義務づけた。そうすることでその地域は商業地域であると感じるのと同じくらい博物館のように感じられるのである。毎年 400,000 人の観光客が町を訪れるが、人に行き来があるのはほとんど休日と週末で、その町の平日は穏やかで静かである。

それぞれの店の収益性を維持するために、共同体の 40 あまりの店舗はまた「一店一宝」の規則に従っている。この規則はそれぞれの店が独自の販売品を持つことを義務づけ、他店がその産物を模倣することを禁じている。その大通り沿いには駄菓子屋のあめ玉や揚げ物のコロッケなどを含む時代を感じさせるもてなしの品を見ることができる。昭和ロマン蔵センターにはクラシックカーのコレクションがあり、古い紙幣が歴史的重要な銀行の建物に展示されている。修復された昔のバスが週末と祝日に町の中を走っている。そしてその地域は定期的に地元の集まりや行事を主催している。